

「わかおしっ」ものがたり

「和歌山県は、みかんとか梅干しとか高野山とかが有名なのは知ってるけど、和歌山市って何があるの？」

そんなちょっぴり切ない県外からの知名度に悩む、和歌山市役所のシティプロモーション課。

「和歌山城、和歌の聖地・和歌の浦、友ヶ島、和歌山ラーメンetc… 和歌山市には、歴史も文化も海も緑も食も、素敵なものがたくさんあるのに…！」

この歯がゆい現状を打破すべく、シティプロモーション課が放ったユニークな一手。

それは、和歌山市内の各地域を擬人化した6種類のキャラクター広告「和歌山市子」「和歌山城子」「山東竹ノ子」「和歌浦和歌子」「加太鯛子」「雑賀崎海老子」であった。

役所の申請書の記入例に出てきそうなストレートすぎる名前がツッコミどころ満載だったからか、メディアを中心に広告が注目を集めることに成功したものの、次の一手が決まらない……。

そんな折、新年度とともに国から派遣されてきた謎の「地方創生特命参事」との出会いが、事態を大きく転換させる。

「和歌山市子たちが、和歌山市の未来を護るのです」

参事の導きで、シティプロモーション課の職員Kが広告のキャラクター「和歌山市子」へとまさかの変身！？

他にも、職員Kと関わりが深かったり薄かったり無かったりする5人がそれぞれのキャラクターに変身し、プロモーション・アイテムを授けられた…！

和歌山市の魅力を掘り起こす、竹ノ子の「くわ」
和歌山市に新しい風を届ける、城子の「うちわ」
和歌山市の名を全国に響かせる、鯛子の「巨大ほらがい」
和歌山市の物語を世に届ける、和歌子の「メガホン」
和歌山市の未来を照らす、海老子の「ランタン」

そして…

職員K、いや、『和歌山市子』は言った。

「私に授けられたアイテムは、ステッキ…？ ということは…」

「“なんて素敵（ステッキ）な和歌山市”を作る、ってこと！？」

参事は言った。

「えっ、あ、はい。まあ、それで…（和歌山市の未来を護る、「六尺棒」のつもりだったんだけど…）」

参事に導かれ、和歌山市の魅力を全国に、そして未来に届けるため、和歌山市を「多くの人に愛される街」にするべく、前代未聞のシティプロモーションが幕を開けた！